

保育者養成音楽表現における手遊びの検討

—学生の意識調査と遊び方実践を通して—

安 藤 千 秋

はじめに

筆者は全国大学音楽教育学会中・四国地区に所属し、音楽教育の研究を長年行っている。学会では創立40周年記念事業の中・四国地区オリジナルのあそび歌曲集発刊に向けて、昨年より調査・分析を始めているところである。

あそび歌の研究は、平成30年度一般社団法人全国保育士養成協議会ブロック研究助成金を受け、保育現場の手遊び・からだ遊びの効果を何処に求めているかという保育者の意識調査と既刊行の手遊び・からだ遊び集等の出版物44刊から内容（遊び方等）について分類を行った¹⁾。44刊の遊び方別分類は、手遊び、からだ遊び、わらべうた、うた遊び・うた4種類の分類となり、遊び歌の比率は、手遊び5割、からだ遊び3割、わらべうた2割と、手遊びが最も多く収められていることが分かった。

また、中・四国地区学会の共同出版分析チーム（山川、別府、藤山、久光、安藤）は、令和元年中・四国地区学会（高知研究大会）において、44刊からスタンダードな10刊を抽出し、816曲の遊び歌のカテゴリー別分析から身体的な発達および音楽的な発達をふまえて検証した。更に、学生、保育者、保護者が知っていると思われる10曲から、乳幼児の発達に着目した年齢別分析を行い、0～2歳児の遊び方傾向、3～5歳児の遊び方傾向を見出し、既存の曲集から見えてくる特徴を検証した²⁾。

カテゴリー別分析では、声の使用割合が816曲中396曲と高いことから、身体だけではなくオノマトペ等で声を合わせる遊びも展開されていると考えられる。また、年齢や発達に関わらず、手指を中心に上半身を使う遊びが多く、偏りがあることが示唆された。「手遊び」に分類される曲は、比較的狭い音域で旋律とリズムに規則性があることが曲の特徴としてあげられた。特に、伴奏よりも保育者の言葉や動き、子どもたちの表情や反応を見るなどコミュニケーションに着目した遊びが多い傾向にあった。

学生、保育者、保護者が知っていると思われる10曲からは、年齢別の展開あそびについて0～2歳児は、遊び方体位、遊び人数、関わる対象者がそれぞれ「座って」、「2・3人」、「保育者」の割合が高いことから保護者や保育者とのアイコンタクトやタッチングに着目して掲載されている傾向にあると言える。3～5歳児は、遊び方体位、遊び人数、関わる対象者がそれぞれ「立って、移動して」、「グループ」、「保育者、友だち」の割合が高く、主な使用部位については「手」「指」「声」の上半身であることから、対象年齢が高くなると使用部位が多くなると同時に、一連の遊びの中で身体や言語による表現を即興的に楽しむ活動が含まれた遊び方の傾向となっていると言える。10曲を表1に示す。

手遊びについて堂本（2018）は、「往々にして、本を読む前や保育者の話の前、すなわちメインの前座のような場合が多く、中には「手はお膝」で終るものもあります。便利であることは確かですが、多くの保育者が、手遊びの終わりとともに、子どもが全員自分に注目したかを確認、メインと思われる活動へと向かいます。ですが、音楽を共に楽しむという観点から、手遊びをもっと見直すべきだといえ

令和2年1月6日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 子ども学科
TEL 0877(49)8051 FAX 0877(49)5252
Email ando@kjc.ac.jp

表1 10曲一覧

1	大きな栗の木のしたで	6	むすんでひらいて
2	げんこつ山のためきさん	7	グーチョキパーでなにつくろう
3	手をたたきましよう	8	あたまかたひざボン
4	とんとんとんとんひげじいさん	9	あくしゅでこんにちは
5	やきいもグーチャーパー	10	おちたおちた

ます」と述べている³⁾。

また、阿部(1979)は、「保育における指遊び手あそびは、時としてそのあそびを楽しむためのものではなく、集中し、静かにさせるための「道具」になってはいないでしょうか。…曲に合った動作は、子どもたちのうたを生き生きとした楽しいものにしてくれるのです。」と述べている⁴⁾。約40年前より、手遊びは保育現場で頻繁に行われているが、メイン活動ではなく脇役という認識が現在も残っているようである。

『保育所保育指針解説』では、1歳以上3歳未満児の感性と表現に関する領域「表現」内容に「②音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。③生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き…。④歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。」⁵⁾とあり、この内容には音楽、リズム、動く、歌う、全身と手遊び要素が含まれている。また、3歳以上の感性と表現に関する領域「表現」内容に「②生活の中で美しいものや心動かす…イメージを豊かにする。④感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現…。⑧自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなど楽しさを味わう。」⁵⁾とあり、自分で感じたことや考えたイメージを音、声、動き、言葉で表現する手遊び要素が含まれていると考えられる。

筆者は、手遊びは場面と場面を繋ぐだけの遊びではなく、リズムの楽しさ、言葉をイメージして表現する楽しさ、感じたこと考えたことを身体で表現する楽しさなど、幼児期の体験を通して味わうことができる、領域「表現」の内容が含まれた遊びの一つと考えている。そこで、本研究では共同出版分析チームが選出した手遊び10曲(表1)について、アンケート調査(質問紙調査)を行い、手遊びに関して一年次学生の認識や考えを明らかにする。そし

て、年齢に沿った遊び方を学生が考え、学生同士の実践から実習に向けてのスキルアップと授業内容の見直しを目的とする。

1. 手遊びの10曲に関するアンケート調査

(1) 方法

手遊びに関する実態について、学生の認識や考えを把握するため、手遊び10曲に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査は、「保育内容(表現I)(身体と音楽A)」を履修している、子ども学科第I部1年A・Bクラス57名を対象に、授業初日に2019年9月26日に実施した。10曲に関するアンケート内容及び質問項目を次に示す。

質問1：この手遊びを知っていますか。

質問2：この手遊びをいつ頃知りましたか。(質問①ではいと回答した人が答える)

質問3：この手遊びを実践できますか。(質問1ではいと回答した人が答える)

質問4：保育現場の手遊びについてどのような場面で行うと思いますか。

質問5：どのような方法で手遊びを学ぼうと思いますか。

質問6：手遊びに関しての考えを教えてください。

質問1～3は、手遊びについての認識を把握する項目、質問4～6は、手遊びに関する考えを問う項目とする。分析方法は単純計算を行い、手遊びに関する認識度を把握でき、手遊びに関する各自の考えが整理できると考えた。

(2) 結果と考察

質問項目別の結果と考察について述べる。

表2 手遊びの認知有無

質問1 この手遊びを知っていますか？（回答総数57）		はいと回答した数	
とんとんとんとんひげじいさん	100% (57)	手をたたきましよう	89% (51)
グーチョキパーでなにつくろう	98% (56)	あたまかたひざボン	75% (43)
むすんでひらいて	98% (56)	やきいもグーチャーパー	56% (32)
大きな栗の木のしたで	96% (55)	おちたおちた	25% (14)
げんこつやまのたぬきさん	93% (53)	あくしゅでこんにちは	25% (14)

質問1について、10曲の手遊びについて認知度の有無を問う質問である。57名全員が回答し、曲ごとに「知っている」、「知らない」に回答する。一番知っていると回答した曲は、とんとんとんとんひげじいさん100%と高く、次にグーチョキパーでなにつくろう98%、むすんでひらいて98%、大きな栗の木のしたで96%、げんこつやまのたぬきさん93%となり、上位5曲となった。筆者が保育現場でよく目

にする手遊びに、やきいもグーチャーパーとおちたおちたがあるが、やきいもグーチャーパー56%と置いていたより低く、おちたおちた25%は最も認知度が低い結果となった。（表2）

質問1「知っている」と回答した学生に、いつ頃この手遊びを知ったか①保育所・幼稚園の時②中学生・高校生の時③短大に入学してからの3つから回答してもらう。曲目によって回答数に違いがある。

表3 認知時期

質問2 この手遊びをいつ頃知りましたか？（質問1で知っていると回答した人が答える）				
① 保育所・幼稚園の時 ② 中学生・高校生の時（職場体験・実習・ボランティア） ③ 短大に入学してから				
とんとんとんとんひげじいさん	（回答数57）	①82%	②11%	③7%
グーチョキパーでなにつくろう	（回答数56）	①91%	②5%	③4%
むすんでひらいて	（回答数56）	①96%	②4%	③0%
大きな栗の木のしたで	（回答数55）	①95%	②4%	③1%
げんこつやまのたぬきさん	（回答数53）	①98%	②2%	③0%
手をたたきましよう	（回答数51）	①88%	②6%	③6%
あたまかたひざボン	（回答数43）	①81%	②14%	③5%
やきいもグーチャーパー	（回答数32）	①69%	②22%	③9%
おちたおちた	（回答数14）	①57%	②21.5%	③21.5%
あくしゅでこんにちは	（回答数14）	①29%	②14%	③57%

質問2について、①の認知度が高い上位5曲は、げんこつやまのたぬきさん98%、むすんでひらいて96%、大きな栗の木のしたで95%、グーチョキパーでなにつくろう91%、とんとんとんとんひげじいさん82%と幼児期に知ったことがわかる。そのほかの2曲もあたまかたひざボン81%、やきいもグーチャーパー69%と幼児期に保育現場で経験していることがわかった。（表3）この結果から、あくしゅでこんにちはを除き、9曲が保育所・幼稚園で経験し、現

在も覚えている手遊びであると明らかになった。保育者と共に遊ぶ楽しい体験が大人になっても記憶として残っていることから、手遊びは乳幼児期の楽しい活動の一つと言えるのではないかな。

次に、質問1で「知っている」と回答した学生に、この手遊びを実践できるか①できる②少しできる③できないの3つから回答してもらう。曲目によって回答数に違いがある。

表4 手遊びの実践度

質問3 この手遊びを子どもに実践できますか？（質問1で知っているとは回答した人が答える）					
① できる		② 少しできる		③ できない	
とんとんとんとんひげじいさん	（回答数57）	①74%	②21%	③5%	
ゲーチョキパーでなにつくろう	（回答数56）	①84%	②14%	③2%	
むすんでひらいて	（回答数56）	①75%	②18%	③7%	
大きな栗の木のしたで	（回答数55）	①64%	②27%	③9%	
げんこつやまのたぬきさん	（回答数53）	①70%	②23%	③7%	
手をたたきましょう	（回答数51）	①41%	②45%	③14%	
あたまかたひざポン	（回答数43）	①51%	②26%	③23%	
やきいもゲーチャーパー	（回答数32）	①69%	②22%	③9%	
おちたおちた	（回答数14）	①34%	②59%	③7%	
あくしゅでこんにちは	（回答数14）	①21%	②71%	③8%	

質問3について、実践度が高い手遊びは、ゲーチョキパーでなにつくろう84%、次にむすんでひらいて75%、とんとんとんとんひげじいさん74%、げんこつやまのたぬきさん70%の順であった。（表4）質問1で知っているとは回答した学生は、この4曲について70%以上ができると回答していることから保育現場で頻繁に行われ、楽しい体験として記憶されていると思われる。大きな栗の木のしたでと手をたたきましょうの2曲は、入学後にピアノ課題曲としてコード伴奏する曲だが、意外に遊び方についての認識は低いと感じる。

質問1～質問3の結果から、質問1から手遊び10曲の認知度、質問2から手遊びの認知時期、質問3から手遊びの実践度が明らかになり、認知度と実践度は比例しておらず、認知時期が乳幼児時期ということから、曖昧な記憶になっていると思われる。どの曲も自信を持って実践できる手遊びには至っていないことが明らかになった。

次に、質問4で保育現場の手遊びについて、どのような場面で行うと思うかについて57名が回答する。この質問内容は、保育士養成協議会ブロック研究の保育者への意識調査項目と同じである。（複数回答可）

表5 保育現場の手遊び場面

質問4 保育現場の手遊びについて、どのような場面で行うと思いますか？（回答数57）			
絵本読み聞かせの導入で行う	89% (51)	帰りの会で行う	67% (38)
活動と活動の繋ぎに行く	86% (49)	外あそびの前・後に行く	44% (25)
必要に応じて行う	83% (47)	給食の前・後に行く	37% (21)
朝の会で行う	68% (39)		

質問4について、実習未経験の1年生57名に、保育現場の7場面に絞って回答してもらう。その結果、手遊び実践は絵本読み聞かせの導入で行う89%、活動と活動の繋ぎに行く86%、必要に応じて行う83%が高いと思っていることが分かった。（表5）筆者は7つの場面全てにおいて80%以上になると予測していたが、外あそびの前・後に行く44%、

給食の前・後に行く37%と低くなっている。現時点では、授業の中で手遊びを学んでおらず、どんな場面で行われているか想定できなかったと思われる。この回答から、場面に応じた遊び方実践の必要を感じた。

次に、質問5でどのような方法で手遊びを学びたいか57名に回答してもらう。（複数回答可）

表6 手遊びを学ぶ方法

質問5 どのような方法で手遊びを学ぼうと思いますか？（回答数57）			
授業で知る	96% (55)	友だちに教えてもらう	60% (34)
子ども向けの教育番組で知る	77% (44)	先輩に教えてもらう	51% (29)
ネットの動画で知る	74% (42)	あそび歌をDVDで知る	40% (23)
あそび歌の本で知る	68% (39)		

質問5について、手遊びを知る方法として、授業で知る96%が一番高く、今からの授業で子どもに実践できる遊びを学びたいという意欲が伺える。また、子ども向けの教育番組で知る77%、ネットの動画で知る74%について思っているより低いと感じた。学生の様子を見ていると、童謡、手遊び、ペープサート、パネルシアター、指導案までYouTubeから情報収集をしていると思われる。調べもの＝ネットになりつつある現状は、動画からの聞き覚えが中心となり、手遊びや童謡の音程が微妙に違う場合が多い。音程が定まらない状況が続くと、

子どもの情緒安定に繋がらず、曖昧な音程が記憶として残る怖さがある。今後の授業ではしっかりとした音程で学生一人ひとりが工夫して実践できるよう進めていく。一番低かったあそび歌のDVDを知る40%は、DVD販売が既にYouTubeの影響で縮小していることから、目にすることが少なくなっていると思われる。（表6）

次に、質問6で手遊びに関して考えを57名に回答してもらう。この質問内容は、保育士養成協議会ブロック研究の中の保育者の意識調査項目と同じである。（複数回答可）

表7 手遊びについての考え

質問6 手遊びに関しての考えを教えてください。（回答数57）	
表情や手足など体の動きを活発にすることができると思う	96% (55)
周囲の子ども同士で進んで関わり合いがもてるようになる	84% (48)
言葉の理解や発達に関係があると思う	82% (47)
季節の自然や生き物に興味をもつことにつながると思う	79% (45)
進んで体を動かそうとする気持ちを促すと思う	79% (45)
手遊びは、遊び方を理解しているとみんなで楽しく遊べる	75% (43)
食べ物についての遊び歌は、進んで食べようとする気持ちを促すと思う	68% (39)
様々な生活習慣を身につけことに役立つと思う	58% (33)

質問6について、手遊びについての考えは、表情や手足など体の動きを活発にすることができると思う96%と一番高く、次に周囲の子ども同士で進んで関わり合いがもてるようになる84%、言葉の理解や発達に関係があると思う82%、季節の自然や生き物に興味をもつことにつながると思う79%、進んで体を動かそうとする気持ちを促すと思う79%、手遊びは、遊び方を理解しているとみんなで楽しく遊べる75%の順になっている。（表7）手遊び場面の質問からも食事の前後が低かったことから、食べ物につ

いての遊び歌は、進んで食べようとする気持ちを促すと思う68%、様々な生活習慣を身につけことに役立つと思う58%と他に比べやや低くなっている。意識調査時点では、子どもが手遊びを経験することで、何がどのように育つかといったねらいまでは把握できていないと思われる。

そこで、手遊びに関して『幼稚園教育要領解説』⁶⁾の5領域に照らし合わせ、次の説明を行った。手遊びの考え①～⑧について、①⑤⑦⑧が心身の健康に関する領域「健康」、②⑥が人との関りに関する領

域「人間関係」と言葉の獲得に関する領域「言葉」、③が身近な環境との関わりに関する領域「環境」、③⑤⑥感性と表現に関する領域「表現」に照らし合わせることができ、5領域が絡み合っていることを実践前に説明した。

2. 手遊び10曲の遊び方実践

(1) 方法

手遊び10曲の実践について、「保育内容（表現Ⅰ）（身体と音楽A）」を履修している学生57名を対象に、2019年10月3日～10月17日の3回授業で実施する。

- ① 筆者が手遊びの遊び方を紹介する。（基本的年齢の遊び方）
- ② 基本的な遊び方を覚える。
- ③ 年齢別の遊び方について各自で考える。（0歳児～5歳児）
- ④ 考えた遊び方を学生同士で実践する。

(2) 実践と考察

「保育内容（表現Ⅰ）（身体と音楽A）」の3回授業

の中で、アンケートを行った10曲について遊び方を実践した。10曲の中で学生全員が知っていると回答した上位5曲（とんとんとんとんひげいさん、グーチョキパーでなにつくろう、むすんでひらいて、大きな栗の木のしたで、げんこつやまのためきさん）から、できると回答した学生が64%と低かった①大きな栗の木のしたでについて遊び方の実践をまとめる。次に知っていると回答した学生が25%と低かった2曲（おちたおちた、あくしゅでこんにち）から、筆者が保育現場で頻繁に実践されていると感じている②おちたおちたの遊び方について実践内容をまとめる。

① 大きな栗の木のしたで

最初に、筆者が所有する41冊から、この曲についての年齢別傾向を学生に紹介する。（表8）0～2歳児の遊び方傾向は、主に座っての体位、保育者が対面または膝の上で行われている。3～5歳児の遊び方傾向は、立って移動する動きになっており、友だちとのかかわりが多い傾向となっている内容を紹介する。

表8 大きな栗の木のしたで遊び方傾向

<p>（0～2歳児の遊び方傾向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と対面遊び ・保育者の膝の上で手を持ってタッチング ・アイコンタクト有 ・0～2歳児は同じ遊び方が提示 	<p>（3～5歳児の遊び方傾向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立って上半身使用 ・友だちと向き合いタッチング ・移動して友だちとかかわる ・3～5歳児は同じ遊び方提示
---	---

次に、0～5歳児用に出版されている阿部直美著書の大きな栗の木のしたでを紹介する⁷⁾。0・1歳児は保育者の膝に座り後方から手を添えて遊ぶ方法、2歳児は向かい合って座り遊ぶ方法、3～5歳児は「大きな栗の木の…」の歌詞を特徴ある木に替えて遊ぶ方法を紹介する。この基本的な遊び方を覚え年齢別の遊び方を考え実践する。

《問いかけ：0歳児の遊び方を考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。0歳児向けに考えた遊び方をまとめる。向き合って座り、歌に合わせて身体の一部を触る遊び

が多くみられた。なかでも、3小節目と4小節目の歌詞（あなたとわたし）に合わせて、肩、頬、背中、頭の部位（上半身）を触る遊びとなった。次に、5小節目と6小節目の歌詞（なかよくあそびましょう）に合わせて、手をとって握る、撫でる遊びとなった。0歳児の遊び紹介からは膝の上で保育者が手を添える遊び方法であったが、学生全員が対面遊びとして歌詞に合わせて上半身部位を触る、加えて触る前に声を掛けながら触る遊び方となった。手遊びの導入として「かわいいほっぺ、ぷくぷくお腹触るよ」と声を掛け歌い始める学生もいた。0歳児に見立てた実践は、学生同士の照れがあり、ずっ

とアイコンタクトを取りながらやりきることが難しかったようで、笑いながら途中遊びが中断する場面もしばしばあった。実践後の学生の気付きは、声を掛けながら触る場面から子どものどんな反応や表情で楽しんでいることがわかるか知りたいことがわかった。

《問いかけ：1歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。1歳児向けに考えた遊びは、0歳児と同様に向き合って座り、歌詞に合わせて、肩、頬、背中、頭の部位（上半身）を触る遊びとなる。追加された内容は、1小節目、2小節目、7小節目、8小節目（おおきなくりのきのしたで）の歌詞部分に、手を左右に揺らしリズム的な動きを入れていた。また、一部の学生は触るときに「キュッ」「ギュッ」「ポーン」とおオノマトペを導入していた学生もいた。対面遊びは0歳児と同じ座る体位だが、左右に振るようなリズム遊びを加わえた遊びとなった。学生の気付きは、自分がどれぐらいの動きをすれば、子どもが楽しくリズムを感じることができるか知りたいことが分かった。

《問いかけ：2歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。立って上半身を使った遊びをしているグループが多かった。立った状態で基本的な動きをし、歌いながら左右の足で揺れる、膝で上下に揺れながら遊ぶリズム遊びが見られた。学生の気付きは、歌いながら身体を揺らす遊びをしたが、歌いながら身体表現をどの程度できるか知りたいことが分かった。

《問いかけ：3歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。2歳児の遊びに同様に、立った体位で上半身を使う。膝でリズムを感じながら揺れる動きが加わった。上下、左右の動きに加え「大きな栗の…」の歌詞を二人で大きな栗を二人で協力しながら手で表現するグループもあった。「あなたとわたし…」の歌詞では近くの友だちと向き合って指さす動きがあり、人とかかわりながら遊ぶ実践となった。

学生の気付きは、3歳児は二人組で大きな栗などを表現したり近くの友だちと関わりながら遊んだが、どのくらいの時期になると関り遊びができるか知りたいことが分かった。

《問いかけ：4・5歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組、小グループで実践する。歌詞の一部分を替え歌にしている学生が多かった。遊び方体位は、立って移動するが加わり、学生が考えた替え歌は植物、自然、生物、食物、その他の5種類に分けることができた。替え歌一覧表は表9に示す。項目ごとに一部分を記入する。

植物：桜、桃、ヤシ、紅葉…で、両手で左右、上下に形を作り動かし、身体で表現する遊び。

自然：雲、山、枯葉…で、両手で表しながら動きをつける表現や左右に揺れる動き。

生物：クジラ、鳥、魚のブリ…で、手で潮を吹く動作や手を広げて飛ぶ動作、魚の形を作り食べるポーズの表現遊び。

植物：おにぎり、ご飯で、大きな三角おにぎりを作る動きやご飯を食べる動き

その他：少人数だが昔話、笑顔、挨拶といったストーリー性があるものや生活習慣の替え歌から、クラス全員と関わる遊び。

表9 「大きな栗の木のしたで」の替え歌一覧表

項目	替 え 歌 (人数)	遊 び 方
植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな桜の木の下で… ・大きなリンゴの木の下で…おいしく食べましょう ・大きな桃の木の下で… ・大きなヤシの木の下で… ・大きな紅葉の木の下で… ・大きなバナナの木の下で… ・大きなすすきの木の下で… ・大きなぶどうの木の下で… ・大きなイチヨウの木の下で… ・大きなクリスマスツリーの木の下で… ・大きなドングリの木の下で… ・大きなヒノキの木の下で… ・大きな柿の木の下で… ・大きなクヌギの木の下で…どんぐりころころ ・大きなミカンの木の下で… ・大きなイチジクの木の下で… ・大きなクルミの木の下で… ・大きなヒマワリの木の下で… ・大きなパイナップルの木の下で… ・大きなさくらんぼの木の下で… ・大きな杉の木の下で… ・小さな小さなつくしがにょきにょき… 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を桜の花びらのようにヒラヒラ動かす ・手を上にあげリンゴの形にする ・手を腰に置きおしりを左右に動かす ・手をフラダンスのように動かす ・手のヒラヒラしながら上から下へ動かす ・バナナの皮をむくような動作をする ・すすきの垂れ具合を手で表現する ・手でぶどうのつぶを作りほっぺに置く ・両手の指で三角を作る ・クリスマスツリーを手の三角で表現 ・ドングリの形を手でする ・手を上げ三角を作る ・柿の形を手で作る ・手で丸を作り上から下へころころ ・ミカンの形を手で作る ・葉を手のパーで表し上下運動させる ・おなかの前で手で丸にする ・手をパーに上に伸ばし左右に揺れる ・パイナップルのとげを手で表現する ・おなかの前で丸を作り揺らす。 ・手を上げ三角を作る ・手のひらを合わせてかがんで立つ動作をする
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな雲の影の下で… ・大きな山がありました… ・大きな山のてっぺんで… ・大きな枯葉の木の下で… 	<ul style="list-style-type: none"> ・雲のふわふわを手で表現する ・手を合わせ三角を作り登る動き ・手を合わ三角△を作り下を見下ろす ・手を上から下へヒラヒラ動かす
生物	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな魚のクジラさん… ・大きな鳥の木の下で… ・大きなブリがきましたよ…おいしく食べましょう… 	<ul style="list-style-type: none"> ・手で魚の形から潮を吹く動作 ・鳥のように手を広げて飛ぶポーズ ・魚の形を作り食べるポーズを入れる
食物	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなおにぎり作りましょう…仲良くにぎにぎ… ・みんなでご飯おいしいな…苦手なものはみんなで挑戦だ… 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を上にあげ大きな三角おにぎり作る ・ご飯を食べる動作をする
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなお山のふもとでは おじいとおばあ 仲良く暮らしてる 仲良く歩きましょう (踊り・走り) 大きなお山のふもとでは… ・まいにち笑顔素敵だな 笑顔に魔法 楽しくなってくる みんなで笑顔 楽しいな… ・大きな声でこんにちは 今日元気遊びましょ う おててつないでルンルンルン みんなで遊びと楽しいね… 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひげと指差し笑顔から手をつなぎ歩く (踊る・走る) 動作をする ・手をほほにあて顔を左右に揺らす ウキウキする表現を手で表現する ・みんなで挨拶をする 友だちと手をつなぎ回る

一番多く替え歌になった植物の項目では、「栗の木」の歌詞を他の植物に替える遊びで、なかでも「桜の木」「桃の木」「リンゴの木」が多く、自然項目では、「大きな雲」「大きな山」といった、一年中を通して遊べる遊びになっていた。生物項目では、少人数だが「大きな魚」「大きなブリ」「大きな鳥」といった、なりきり遊びとなり、その他項目では、歌詞全部を替えるストーリー性のもの、かわり遊びになっていた。学生の気付きは、替え歌内容を子どもがどのようにイメージして動くか、途中の声をどのようにしたら楽しむことができるか知りたいことが分かった。

② おちたおちた

大きな栗の木のしたでと同様に、筆者が所有する41冊から、この曲について年齢別傾向を学生に紹介する。(表10) 0～2歳児の遊び方傾向は、0歳児の遊び方が提示されておらず、1・2歳児は座っての体位で保育者が触る遊びと、立って基本的な3つのポーズを覚え遊ぶ2つがある。3～5歳児の遊び方傾向は、座って立って動く体位から、保育者や子どもがリーダーとなり、おちるものを考えて進めるかわり遊びを紹介する。この基本的な遊び方を覚え、年齢別の遊び方を考え実践をする。

表10 落ちたおちた遊び方傾向

<p>(0～2歳児の遊び方傾向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児向け遊び提示無し ・1・2歳児保育者の膝の上で手でタッチング ・立って3種類のポーズを覚えて動く ・アイコンタクト有 ・1・2歳児は同じ遊び方が提示 	<p>(3～5歳児の遊び方傾向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座って立って動きを変える ・落ちてくるものが変わる ・保育者がリーダーになる ・子どもがリーダーになる ・4・5歳児は同じ遊び方提示
---	--

次に、0～5歳児用に出版されている阿部直美著書のおちたおちたを紹介する⁷⁾。3～5歳児対象に基本的3つのポーズから、3つのおちる順番を変える遊び、替え歌にして飛ぶもの飛ばないものゲーム遊びを紹介する。紹介した遊び方には0～2歳児対象の遊び方が提示されていない。そこで、まず0歳児、1歳児、2歳児の遊び方について考え実践する。

《問いかけ：0歳児の遊び方を考えましょう》

この問いかけに学生は「0歳児はリンゴ、ケムシ、カミナリが落ちるって分かるのかなあ」「保育者の真似はできると思う」「リンゴの絵本を見せる」「カードやペープサートで見せる」という意見があった。単に、0歳児の遊びを考えるという問いかけでは、なかなかアイデアが浮かばない。筆者は、0歳児6カ月以降を対象に対面で遊ぶ内容として、音の鳴るおもちゃ遊びや絵本をめくる楽しさなど、視覚的刺激から感じることや楽しむことを紹介する。「他にどんな遊び方があるか考えましょう」

の質問に、「触って遊んではどうか」という意見があった。そこで、次の質問を問いかけた。

《問いかけ：0歳児見て触れる遊びを考えましょう》

この問いかけから、次週の課題として各自が0歳児に触ってほしいものを考え素材を持参することとなった。学生が持参したものは、音が鳴るもの、柔らかいもの、硬いもの（その他を含む）の3つに分類できた。この分類から、3グループに分かれ遊び方や楽しんでもらいたいこと、知ってもらいたいことなどをグループごとにまとめ発表を行った。

＜音が鳴るもの＞…持参物と遊びまとめを図1、図2、図3、図4に示す。



図1 音の鳴るもの (Aクラス)

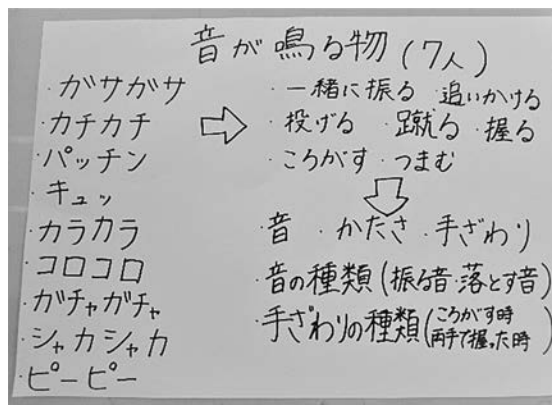


図2 遊び方と知ってもらいたいこと (Aクラス)



図3 音の鳴るもの (Bクラス)

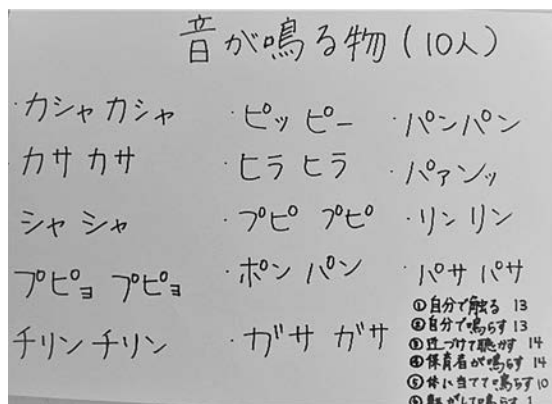


図4 遊び方と知ってもらいたいこと (Bクラス)

音が鳴るものとして学生が持参したのは、いつも使用している身近なものや文具、紙、ビニール素材、ドングリ入りケース、クリップなどで、中身が出る恐れ of 素材が含まれていた。遊び方は、音をオノマトペで声を掛けながら振る、転がす、触る、保育者が鳴らす、追いかけるなどである。この素材から何を楽しくてもらいたいのかについて、「音の種類や手触りを知ってもらいたい」「すべての物に音があることを感じてほしい」「触り方で音が違ってくる」「ちょっとした音の驚きを楽しむ」「触ることで発する音を楽しむ」「音に安心感をもってもらおう」という意見があった。素材の音を子どもと一緒に鳴らしながら音の変化を楽しみ、いろんな音があることを知ってもらいたいことが分かった。持参物から

感じたことは、触ることに焦点を当て子どもの安全性については、この時点では考えられていない。素材選びは、小さくて子どもが飲み込む大きさの部品や素材は0歳児にとって危険である。0歳児が手に触れて遊ぶ物は安全性を考えた素材選びが大切だということを伝える。

<柔らかいもの>…持参物と遊びまとめを図5、図6、図7、図8に示す。



図5 柔らかいもの (Aクラス)

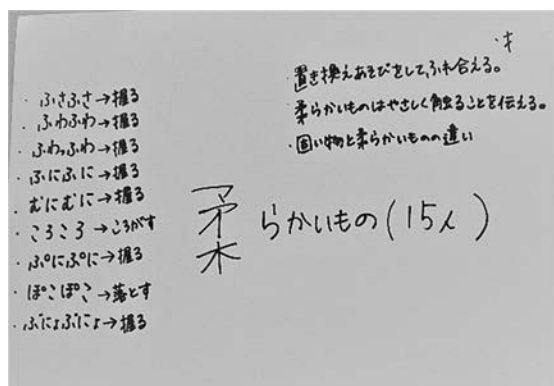


図6 遊び方と知ってもらいたいこと (Aクラス)



図7 柔らかいもの (Bクラス)

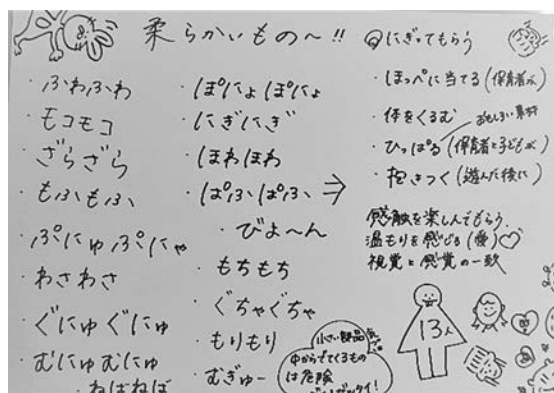


図8 遊び方と知ってもらいたいこと (Bクラス)

柔らかいものとして学生が持参したのは、ハンドタオル、毛糸、ボール、スポンジ、綿、ぬいぐるみ、手作りフェルトおにぎりなどである。遊び方は、素材の感触をオノマトペで声を掛けながら、頬に当てる、身体を包む、引っ張る、握る、転がす、落とすなど、手で触る遊びである。この素材から何を楽しんでももらいたいのかについて、感触を楽しむ、温もりを感じる、視覚と感触の一致、柔らかいものを優しく触る、硬いものと柔らかいものの違いなど、手で感じる感触を声で表す、柔らかさに合った触り方を知ってもらいたいことが分かった。声の表現は、アイコンタクトをとりながら声の出し方や顔の表情を工夫して実践することを伝える。

＜硬いもの＞…持参物と遊びまとめを図9，図10，図11，図12に示す。



図9 硬いもの (Aクラス)

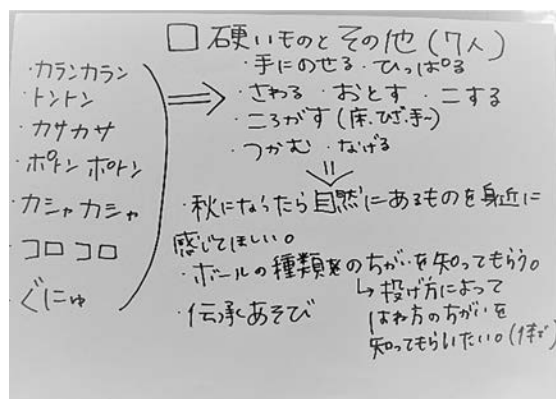


図10 遊び方と知ってもらいたいこと (Aクラス)



図11 硬いもの (Bクラス)

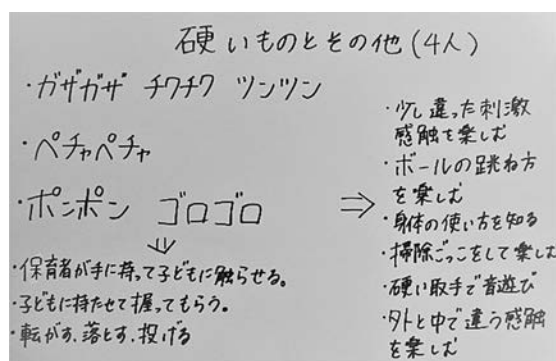


図12 遊び方と知ってもらいたいこと (Bクラス)

硬いものとして学生が持参したのは、スーパーボール、たわし、スライム入り哺乳瓶、お手玉、毛糸玉、まつぱっくり、どんぐりであった。遊び方は、感触をオノマトペで声を掛けながら、手に載せる、引っ張る、触る、擦る、転がす、落とす、投げるなど動きを伴う素材は、動かしながらの遊びとなっている。この素材から、何を楽しんでもらいたいのかについて、秋の素材や0歳児ができるボールの投げ方や転がし方から跳ね方の違い、掃除ごっこ、刺激的な感触などを知ってもらいたいことが分かった。0歳児にみて触れる遊び方は、音の鳴る物、柔らかい物、硬い物の素材から、音、感触、動きの工夫を楽しんでもらいたいことが分かった。0歳児がどのような素材に興味があるか、今後の授業内容に

加えたい。

《問いかけ：1歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。1歳児向けに考えた遊びは、座った体位で「おちたおちた…」の歌詞部分に手拍子を入れ「リング、ケムシ、カミナリ」の掛け声部分にポーズと同時に顔の表情を入れる遊びとなった。学生の気付きは、子どもが保育者の表情をみて、どのような反応や表情をするかを知りたいことが分かった。

《問いかけ：2歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。2歳児向けに考えた遊びは、立った体位

で「おちたおちた…」の歌詞部分に左右に振る手拍子を入れ、「リンゴ、ケムシ、カミナリ」の掛け声部分にポーズと同時「ワッ、ハッ、フー」と言ったオノマトペを入れる遊びとなった。学生の気付きは、声を掛けると声に反応から、どんな動きになるか知りたいことが分かった。

《問いかけ：3歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組で実践する。立った体位で、手拍子に加え膝でリズムを感じながら揺れる上下運動、膝でリズムを感じながら左右に揺れる運動が加わった。「なにがおちた…」の歌詞部分を替え歌にして「ヘビがおちた… ニョロニョロニョロ」と生き物になりきる遊びがいくつもあった。3歳児の表現は、短い歌詞の中で部分表現を多く経験することから、身体を動かす楽しさを知る、個性あふれる表現となった。一部分の替え歌は、発想を引き出す効果的なアイデアと言え

る。学生の気付きは、立った状態から近くの友だちとかかわる遊びにするには、どのような声掛けがあるか知りたいことが分かった。

《問いかけ：4・5歳児の遊びを考えましょう》

この問いかけから各自が考えた遊び方を二人組、グループで実践する。実践した内容を記録し提出する。一番多かった遊び方は、「おちた おちた おちたなにが おちた（リンゴ）」の基本的遊びから（リンゴ）の掛け声部分を替える遊びである。替えた内容は、植物、自然、生物、食物、乗り物、その他の6種類に分けることができた。遊び方は掛け声内容をイメージし、立って上半身で表現する、移動しながら友だちにかかわる遊びである。歌詞の語尾を替える遊びは、子どもが言葉をイメージしながら、動きながら声を発する、瞬時に反応しながら友だちとかかわるなど、かかわり遊びとからだ遊びとなった。替え歌の一覧表は表11に示す。

表11 「おちたおちた」の替え歌（掛け声）一覧表

項目	替 え 歌（掛け声）
植 物	どんぐり、葉っぱ、いがぐり、タンポポ、桜の花びら、花の種
自 然	雨、岩、きらきら星、隕石、流れ星、雲
生 物	リス、毛虫、赤ちゃん、猫
食 物	おにぎり、いちご、バナナ、チョコレート、肉まん、ハンバーグ、アイスクリーム、あめ玉、ケーキ、ポップコーン、お寿司
乗り物	飛行機、車
その他	涙、げんこつ、ほっぺ、帽子、色紙、天上、お金、はさみ、ボール、かばん

掛け声を替えるほかに、「おちた おちた なにが おちた」の歌詞を替え歌にする遊びがあった。最初の歌詞部分を、跳ねた、食べた、投げたなどに替え、言葉をイメージし、自分なりに表現しようとする遊びになった。また、ストーリー性のある遊びでは、導入の声掛けからイメージできるように、声掛けを工夫する姿がみられた。一覧表は表12に示す。

最初から歌詞を替える遊び方は、言葉をイメージして工夫しながら動く、なりきり遊びや全身で複雑な動きをする、からだ遊びとなった。二人組み、小グループ、クラス全員へと展開したことから、4・

5歳児の発達に沿った遊び方と言える。学生を子どもに見立て、どのような声掛けをすれば楽しく遊べるかなど、それぞれの学生が思考錯誤しながら実践する姿がみられた。他の学生の遊び方を経験することから、ストーリー性の展開や集団遊びを知る機会となった。学生の記録資料を一部示す。各自で考えた遊び方をイラスト入りで示したもの（図13、図14、図15）、導入の言葉やどのように展開するかの声掛けを入れたもの（図14、図15）どのような集団遊びになるかを形に示したもの（図16）があった。イラストで動きを示すことは既存の手遊び本に多く見られる。学生が考えた遊び方をイラスト付きの記

表12 「おちたおちた」の替え歌一覧表

替 え 歌			
たべた	たべた	なにを	たべた（団子、おにぎり、おはぎ、せんべい、リンゴ、ブドウ、サクランボ、メロンパン、カレーパン、梅干）
はねた	はねた	なにが	はねた（魚）
なげた	なげた	なにを	なげた（ボール、カバン、アイスクリーム）
あるく	あるく	なにが	あるく（ゾウ）
できた	できた	なにが	できた（大きな円） 図16手をつないで大きな円をつくる
さいた	さいた	なにが	さいた（ひまわり） 図13
おちた	おちた	どこに	おちた（お腹、ほっぺ、お尻）
おきた	おきた	だれが	おきた（ニワトリ、猫、猿、ゾウ） 泣き声やポーズを入れて
われた	われた	なにが	われた（ガラス、おせんべい、風船、卵） 割れる音をオノマトペで表現する
「動物園の動物が逃げ出したよ。何の動物がにげたかな？」 図14			
にげた	にげた	なにが	にげた（ペンギン、ワニ、ゾウ）
「タネから花が咲くまでのストーリー遊び」 図15			
①おちた	おちた…（花の種）	②のびた	のびた…（種の茎）
③さいた	さいた…（たんぽぽ）	④ゆれた	ゆれた…（綿毛）
⑤とんだ	とんだ…（綿毛と種）		

録は、実習時に振り返りができ実践しやすいと考えられる。また、導入の言葉を入れることにより、どんな場面（外遊びのとき、帰りの会、自由遊びの前など）に適しているか考えるきっかけとなった。遊び途中の声がけを示すことで、どのように展開したいかが分かり、グループ遊びのような友だちとかかわる遊びをイラストに示すことから集団遊びに展開することが分かる。筆者からのアドバイスは、4・5歳児の表現活動は細かく具体的な内容を説明するのではなく、自ら考え工夫しながら動き、友だちとのかかわりから感じたことを身体で表現できるよう援助してほしいと伝える。展開について、子どもに実践する場合は思っているようにはならない。今回の声がけの記録に捉われず、子どもの表現から次の声がけができるよう、様々さケースを予測しておくことも伝える。

今回の手遊び10曲の実践は、学生一人ひとりが年齢に応じた遊び方を考え、場面に応じた遊びや声がけ、展開遊びを学生同士で実践を行った。他の学生の考えた遊び方を知るきっかけとなり、子どもの反応や表情について知りたいという意欲が伺えた。実習時に子どもの年齢や発達に沿った手遊びが実践できると期待している。

3. まとめと今後の課題

「保育内容（表現Ⅰ）（身体と音楽A）」の授業の中で手遊びについてアンケート調査（質問紙調査）を行い、手遊びに関する学生の認識や考えを明らかにした。アンケート調査の結果は、筆者が提示した10曲について全曲知っていると予測していたが、10曲中7曲が7割以上知っていると答え、あとの3曲は認知度が低かった。理由として考えられるのは、やきいもグーチャーパーは保育現場でよく遊ばれている手遊びだが、音程の幅が一オクターブと大きく保育者にとって歌いにくい手遊びの一つである。また、喋り音域では歌えない手遊び曲のため、音程が定まらないことも理由の一つと考えられる。

おちたおちたとあくしゅでこんにちのはの2曲は一年中できる手遊びである。年齢に応じた遊び展開ができるが、既存の遊び方は主に3歳児からとなっていることが多い。この2曲について幼児期の体験が最も少なかったことから、保育者がこの手遊びを頻繁に実践していないと思われる。

手遊びを知った時期は、9曲が保育所・幼稚園で経験している回答から、手遊びは大人になっても記憶として残る楽しさを感じられる実体験の一つと言

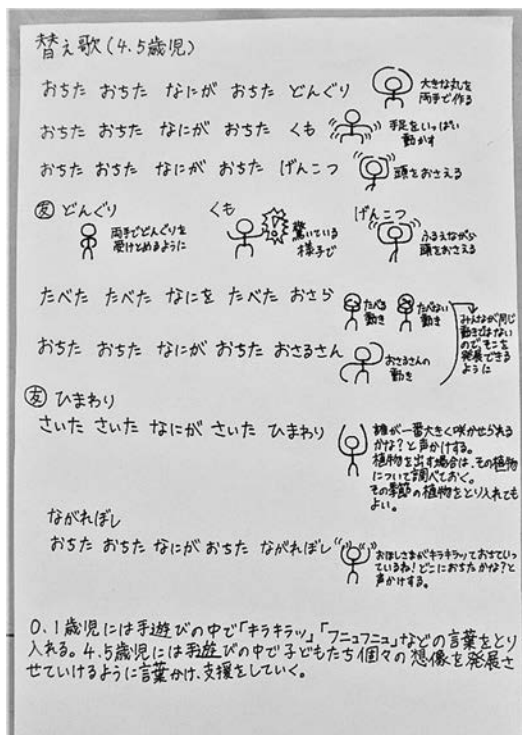


图 13



图 14

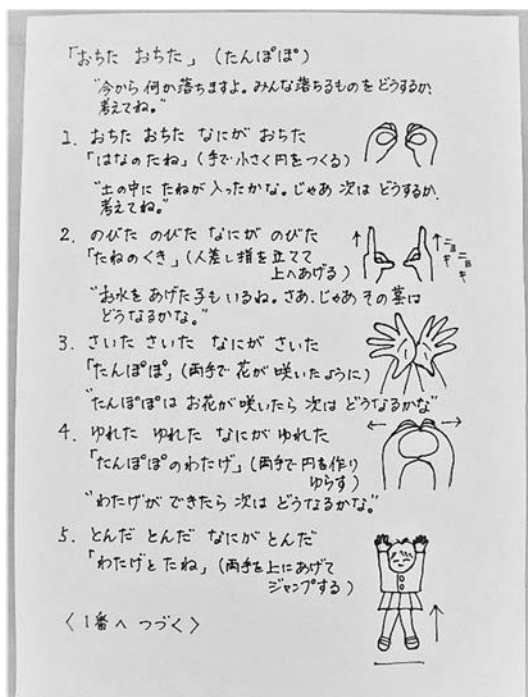


図15

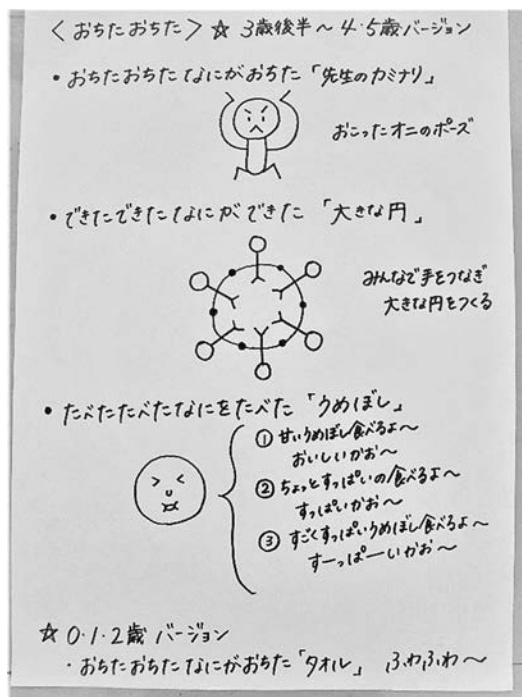


图 16

える。幼児期の記憶から6曲は約6割以上が実践できる、少しできるが2割以上の回答から、知っていると回答した学生の大半があいまいではあるが遊びを実践できると言える。このことから、乳幼児期の遊び体験は重要であると明らかになった。

手遊びについての考えは、食事の前後を除き、様々な場面で手遊びが行われていると予測しており、手遊びの情報は授業で学びたいが一番高い。同時に手遊びを覚えること、場面を想定して実践する方法など授業内容の重要性を強く感じた。次にネットからの情報で学んでいる回答も多かったことが明らかになった。手遊びの考え方は①～⑧のすべてに該当すると回答していることから、手遊びを通して体の動き、友だちとのかかわり、言葉の発達、季節・生き物の興味、みんなで楽しく遊ぶ、食育、生活習慣の発達に繋がると考えていることが明らかになった。

手遊びの実践では、アンケート調査後に手遊びの基本的遊びを覚え、年齢に応じた遊び方実践を考え実践を行った。既存のあそび歌本からは0歳児～1歳児の遊び方が少ない傾向にある。そこで、0歳児～5歳児の発達に適した遊び方を各自が考え実践する。学生の遊び方実践をまとめると、0歳児は対面の体位でアイコンタクトを取り、オノマトペや声をかけながら触る遊び方。1歳児は対面で歌詞に合わせて触る、リズム的な動きを入れる、オノマトペを導入する遊び方、2歳児は立って上半身を使った遊び、次に立った状態で歌いながら楽しんでいる遊び方。3歳児は立った体位で歌いながらリズムを感じる、左右に揺れる動きや膝を使った上下リズム運動、人とかかわりながら遊ぶ遊び方。4・5歳児は立って、友だちとかかわりながらなりきり移動する遊び、からだ遊び、グループ遊び、集団遊び、ストーリー性のある遊び方となった。手遊びを年齢別に考え実践することで、基本的な遊びを覚えるだけでなく、発達に合わせた導入や場面に応じた言葉かけから、子どもの反応や表情、動きについて興味を持ち、知りたいという意欲が伺えた。

今回のアンケート調査と実践から二つの課題が見出された。一つは、子どもの発達に適したねらいから、手遊びが実践できることである。年齢別の実践から発達を予測し遊び方を考えたが、子どもに何を

どう育ってほしいかといったねらいまでにはいたっていない。そのために、手遊びのレパートリーを増やし、場面想定から遊びを展開すること。そして、しっかりとした音程で覚え、他者が実践した遊びの観察から気付きを伝えること。実践内容を記録し独自の資料作成をすることを取り入れていく。また、子どもが音楽や歌にどのような反応するか、年齢別の子どもの手遊び姿映像から音楽的表現を知る機会を設け、ねらいを考えた実践に繋げていきたい。

もう一つは、乳幼児期に触る、つまむ、握る、投げる等の安全な素材について考える素材研究である。どんな素材からどんな音がでるか、年齢に応じた音遊びを考え手作り楽器制作を行う。制作前に、子どもの音反応やおもちゃ遊び映像から、音楽的表現を知る機会を設けることとする。保育者が手作り制作を考える上で、考慮すべき点やねらいについて考えた手作り楽器制作に繋げたい。今後も、音楽表現の実践を重ね工夫や改善を行い、学生が音楽表現の基礎的知識の修得と実践力が身につくよう授業研究を深めていきたい。

あそび歌曲集発刊を視野に入れた研究について、今回の調査・実践から気付きは、0歳児～5歳児の遊び方を載せ、遊びの展開をイラストに示す、更に0・1歳児に素材研究を行い視覚・触覚の刺激を加える素材を示す、年齢に応じたその遊び方がどの場面に適しているかを示す、保育者の声がけを入れる、また、子どものこういったところが育つかを示すなど、歌集に入れることを検討していきたい。

謝 辞

本研究には、全国大学音楽教育学会中・四国地区に所属する共同出版チーム小池美知子先生、山川智馨先生、別府祐子先生、藤山あやか先生、久光明美先生にご承諾を得て、共同研究の一部を記載させていただきました。ご協力いただきました先生方に感謝いたします。また、ご協力いただいた学生に感謝いたします。

注

- 1) 小池美知子・安藤千秋 (2019) 「幼児の発達を

促す年齢に応じた手遊び・からだ遊びの検討」—
既存の手遊び・からだ遊び及び保育現場の意識に
着目して— 全国保育士養成協議会 保育士養成
研究報告書, pp.75-78

- 2) 山川智馨・別府祐子・藤山あやか・久光明美・
安藤千秋 (2019)「既存のスタンダードなあそび
歌分析」—乳幼児の発達に着目して— 中・四国
地区学会 高知研究会冊子pp.9-10
- 3) 堂本真実子 (2018)『保育内容 領域 表現
日々わくわくを生きる子どもの表現』わかば社
pp.67
- 4) 阿部直美 (1979)『指あそび 手あそび100』チャ
イルド社, pp.3
- 5) 厚生労働省 (2018)『保育所保育指針解説』フレー
ベル, pp.168-179 pp.267-281
- 6) 文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説』フレー
ベル, pp.145-233
- 7) 阿部直美 (2016)『保育で役立つ! 0～5歳
児の手あそび・うたあそび』ナツメ社, pp.168
pp.248

